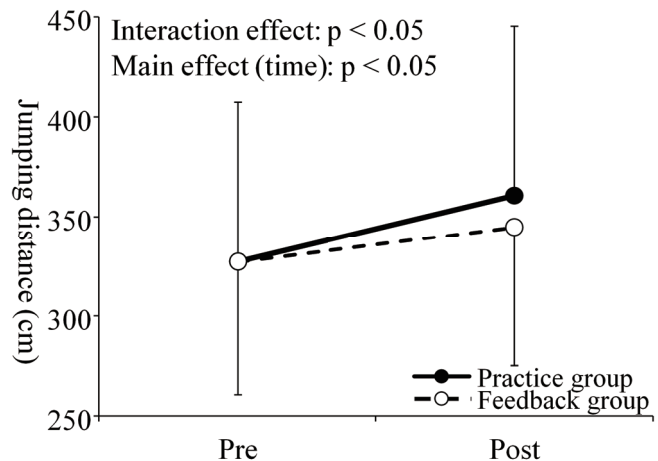


体育授業における映像フィードバックを有効活用するための条件

研究の概要

体育授業における ICT 機器を用いた映像フィードバックを有効活用するための研究を行っています。近年、文部科学省の施策により学校現場への ICT 機器の普及が急速に進み、体育授業においても、タブレット端末等を用いて自身の運動の映像を見て、振り返りを行う映像フィードバックが積極的に行われています。しかし、体育授業のような時間が限られた場面では、映像フィードバックを行うと、練習回数が減少するという問題もあります。そこで、初心者にとって練習回数を減らしてでも映像フィードバックを行うべきかどうかを検討しました。陸上競技走幅跳を課題として、初心者を対象に、練習回数が多く映像フィードバックを行わない群と、練習回数は少ないが映像フィードバックを行う群に分け、学習成果を比較しました。その結果、両群とも指導前後で記録は向上したものの、練習回数が多く映像フィードバックを行わない群の方がより大きな改善を示しました (Nishimura and Kinomura, 2025)。



研究の特徴

この研究から言えることは、体育授業のような練習時間が限られた状況においては、映像フィードバックを実施することも重要ですが、映像フィードバックの効果を高めるためには、練習回数を極力減らさない工夫が必須になるということです。そして、ICT 機器を活用して映像フィードバック等のこれまでできなかったことを行うことは、学習効果を高めるというポジティブな認識を持っている人が多いと思いますが、この結果は、条件次第では必ずしもそうではないということを示唆しています。また、この研究の結果をより広い視点で捉えたと、私達が疑問を持たずに普段の授業で行っていることが、必ずしも、学習成果の向上につながっていない可能性があるということも示唆しています。

実用化が想定される分野

体育授業, 学校教育

研究者からのメッセージ

体育授業に関する共同研究を実施していただける学校や自治体を探しています。また、体育授業や体力測定等のサポートも可能です。

研究分野 : 体育科教育, 陸上競技, ICT 機器

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学教育学部 保健体育・准教授・西村三郎

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp